

子ども一人ひとりの意向や主体性への配慮をし、安心して生活できるよう、子どもたちを受け止め、寄り添い、子どもたちと職員が共に成長することを目指した。被虐待児、発達障害児、知的障害児等専門的ケアを必要とする児童が多いため、子どもの特徴や状態、ニーズ等を把握するための適切なアセスメントの実施に努め、養育・支援の向上を目指した。

I 中・長期計画に基づく事項

法人理念、東光虹の家の施設理念・基本方針を実現するために策定した中・長期計画に基づき、令和4年度の事業計画を次のように実施した。

1 社会的養護の養育・支援計画

(1) 施設の家庭的養護の推進

課題：

- ・子どもたちの意見を反映した環境づくり
- ・家庭的な養育環境の提供
- ・地域小規模児童養護施設の運営継続、地域分散化の摸索

目標：

- ・子どもの満足度の向上を目的とする仕組みを整備する
- ・ユニットの特徴を生かした家庭的な環境を提供する
- ・地域分散化の方法について検討する

評価：

- ・ユニット内に意見箱を設置し児童からの意見を反映できるよう努めた
児童ユニット会議を利用し子どもたちと一緒に生活環境を整えてきた
- ・地域分散化について具体的な検討ができなかった

(2) 被措置児童等虐待防止や体罰禁止等の権利擁護

課題：

- ・権利擁護規程、職員倫理規程、被措置児童等虐待防止マニュアル等の職員への周知
- ・子どもへの権利擁護について理解できるような取組ができていない

目標：

- ・権利擁護に関する諸規程を周知し理解する
- ・権利ノートを活用した学習の機会を設ける
- ・権利擁護ヒヤリハットに取り組む

評価：

- ・権利ノート検討委員会にて権利ノートの児童用説明資料を完成させ、職員に周知することができた。
- ・権利ノートを活用した学習の機会を設けられなかったため次年度継続とする。
- ・権利擁護ヒヤリハットについて勉強会を実施した

(3) 専門的ケアの強化

課題：

- ・被虐待児、発達障害児、知的障害児等専門的ケアを必要とする児童が多い
- ・支援において子どものニーズの適切なアセスメントが必要である
- ・子どもの生い立ちを理解し養育に反映する必要がある

目標：

- ・多職種で連携し、多角的な支援を実施する
- ・子どもの特性や状態についてアセスメントし、自立支援計画を策定する
- ・子ども自身の生い立ち、家族の状況を把握できるよう努める

評価：

- ・多職種間での連携が不十分なため、継続して多角的な支援方法を考える必要がある
- ・アセスメントシートの記入は定着しているが、専門的な意見をアセスメントに反映させ、自立支援計画を策定する必要がある

(4) 性教育の充実

課題：

- ・児童への性教育の実施
- ・職員の性教育における知識習得
- ・ユニット化に伴った性教育

目標：

- ・性教育の年間プログラムに沿った実施
- ・職員への性教育の取り組みへの理解と習得

評価：

- ・年間プログラムの策定は実施できたが、計画通り性教育を実施できなかった
- ・職員へ十分な性教育の取り組みと理解を得る機会を設けることができなかった

(5) 食育の充実

課題：

- ・ユニット化に対応した衛生管理マニュアルが十分に理解されていない
- ・残食が多い
- ・職員と児童に対する継続的な食育
- ・発達に応じた食事形態での食事提供

目標：

- ・衛生管理マニュアルの周知・徹底
- ・お話し会の実施
- ・新任職員への調理指導
- ・発達に応じた食事形態での食事提供

評価：

- ・衛生管理チェックリストを行うことへの意識の低さがあるためマニュアル内容ではな

くチェックリストの意義を伝えることに重点をおいた

- ・ 新任職員への調理指導ができなかったため、次年度継続していく
- ・ 誤嚥防止と発生時の対応マニュアルについて周知することができなかった

2 組織体制について

(1) 権利擁護（苦情解決、個人情報の保護）の推進

課題：

- ・ 個人情報保護についての意識が薄い
- ・ 苦情・要望に対する課題の解決に対する取り組みが十分でない
- ・ 児童からの苦情・要望の吸い上げが十分でない

目標：

- ・ 定期的な研修等を通じて職員の個人情報保護についての意識を高める
- ・ 苦情、要望として取り上げられた課題について改善に向けた取り組みを行う
- ・ 児童用の意見箱を設置し児童からの苦情や要望の吸い上げの機会を増やす

評価：

- ・ 職員会議を利用しての勉強会や階層別職員研修にて個人情報保護について研修する機会を設けた
- ・ ユニットに意見箱を設置し子どもから様々な要望や意見を聴くことができた。十分に対応できなかったため次年度からは具体的に進められるよう検討できる場を設けていく

(2) 透明性確保の促進

課題：

- ・ 令和4年度は第三者評価を受審する年度である
- ・ 第三者評価受審による改善すべき課題の見直しができている

目標：

- ・ 第三者評価基準を計画的に受審する
- ・ 第三者評価の受審結果をもとに課題の抽出をする

評価：

- ・ 第三者評価を受審することができた
- ・ 課題の抽出と改善に向けた取り組みが年度内に実施できていないため継続

(3) 業務の標準化・改善のシステム化

課題：

- ・ 標準化されていない業務がある
- ・ 業務を改善する仕組みが整っていない

目標：

- ・ 標準化されていない業務について、標準化を図るためマニュアルを整備する
- ・ 改善する仕組みを整える

評価：

- ・業務の標準化ができるよう必要な項目の抽出ができなかったが、気づいた項目についてはマニュアル化してきた
- ・第三者評価受審から浮かび上がった課題を抽出する予定であったが年度内に受審結果が出なかったため具体的に検討できなかった

(4) 家庭支援体制の強化

課題：

- ・アフターケアマニュアルの活用と見直しを行う必要がある
- ・児童相談所、こども家庭相談室と連携した家庭復帰支援計画、退所後支援計画の策定と支援が出来ていない

目標：

- ・アフターケア体制を確立する。
- ・アフターケアマニュアルの活用とマニュアルの点検体制を確立する
- ・児童相談所、こども家庭相談室と連携した家庭復帰、退所後支援を行う

評価：

- ・アフターケアマニュアルの活用と点検はできなかった
- ・家庭復帰支援計画を作成し、児童相談所とも情報共有することができた

(5) 里親支援体制の強化

課題：

- ・里親委託後の児童状況の把握
- ・里親支援体制を整える必要がある

目標：

- ・里親委託後児童のアフターケア支援を実施する
- ・里親委託に向けてマッチングの調整や里親養育実習の受け入れを行う

評価：

- ・里親委託に向け、家庭支援専門相談員、児童相談所、学校等関係機関と連携し、委託先里親へ児童の状況を伝え理解してもらうことができた
- ・里親委託後のアフターケアを目的にこども家庭相談室とも連携し対応した
- ・里親実習を6件受入れた

(6) 地域支援の拠点機能の強化

課題：

- ・地域の子育て支援の充実を図る
- ・地域における公益的な取組が実施できていない

目標：

- ・こども家庭相談室と連携し子育て短期支援事業を積極的に受託し、地域の子育て支援を行う
- ・なんでも福祉相談の体制づくりとして、地域の他施設と連携を図る

評価：

- ・子ども家庭相談室、各市町村と連携し積極的に子育て短期支援事業の受け入れを行った
- ・なんでも福祉相談員として研修に参加し他事業所との情報交換を行った

(7) 災害事故対策の推進

課題：

- ・事故防止の意識づけをしていく必要がある
- ・防犯対策が不十分である
- ・事業継続計画（BCP）が未完成である

目標：

- ・職員の事故に対する意識の向上
- ・安心した生活ができるよう防犯対策に努める
- ・事業継続計画（BCP）を完成させる
- ・危機対応マニュアルの見直し、周知、活用

評価：

- ・提出された事故・ヒヤリハット報告書を回覧し職員へ周知した。年間の分析を実施し、報告すべきケースについて職員会議等を利用し取り上げた。
- ・防犯訓練を実施し、振り返りを行い意識向上や対応策の検討を行った。
- ・BCPを継続して作成している次年度継続
- ・危機対応マニュアルの見直し、周知、活用について十分でないため次年度継続

3 設備の整備

(1) 施設整備

課題：

- ・業務効率化のためにパソコン内の整理が必要
- ・計画的な設備点検がされていない
- ・職員及び児童に安全教育をする必要がある
- ・老朽化した公用車の買い替えが必要である

目標：

- ・パソコン内のデータの削除についてマニュアル化する
- ・設備点検の項目、時期を定め、計画的かつ漏れのない点検を行う
- ・安全教育を実施する
- ・公用車を新規購入し支援の充実を図る

評価：

- ・職員共有のデータの整理を行った
- ・計画的な設備点検が実施できなかったため点検計画の見直しや点検項目の作成が必要である
- ・安全教育の実施はできなかったため次年度継続
- ・職員の意見を聴きながら新しい公用車の購入ができた

(2)災害事故対策

課題：

- ・災害時における食事の提供マニュアルが運用されていない
- ・献立がアレルギー児に対応していない

目標：

- ・災害時における食事提供マニュアルに沿った提供の確認
- ・特定原材料（28品目）を除く食材を使用した献立の作成

評価：

- ・12月に災害訓練を実施し、非常食の保管方法について検討する必要があると気づくことができた
- ・アレルギー対応非常食と熱源を使わない非常食を用意する必要があるため非常食の賞味期限に合わせて買い足す必要がある。次年度継続

4 職員体制について

(1)職員配置計画

課題：

- ・国の示す職員配置の状況が十分とは言えない中、職員の増員を求める声が多い
- ・児童処遇において単独での支援となることが多い

目標：

- ・職員に職員配置基準について理解してもらえるような機会を作る
- ・児童処遇において単独勤務とならないような体制づくりをする

評価：

- ・リーダー層には職員配置基準を理解してもらう機会を作ったが、全職員に対しての理解には至らなかった
- ・単独勤務とならないよう職員の配置を実施した

(2)役割分担（責任体制）

課題：

- ・職員自ら役割を理解し責任をもって業務にあたる必要がある

目標：

- ・職員自ら役割を理解し、責任を果たす

評価：

- ・職員会議にて運営規程の読み合わせを行い、自らの役割を理解する機会を作った

5 人材育成

(1)研修

課題：

- ・職員研修実施要綱が活用されていない

目標：

- ・職員研修実施要綱を活用し、個人の研修計画の作成を目指す

評価：

- ・職員研修実施要項を活用するために要項の読み直しを行った
- ・職員研修実施要項の修正箇所をみつけ修正等を実施することができなかった

(2) スーパービジョン

課題：

- ・SV体制が明示されたが、OJTの実施が不十分である
- ・SV用シートの活用が不十分である

目標：

- ・SV体制を基本とした、OJTの充実を図る
- ・ふりかえりノートが活用できるようにする

評価：

- ・OJTチェックリストを使用しOJTを実施したが、進捗が滞ってしまった職員がいた
- ・SVシートを利用したスーパービジョンは施設全体では行われなかった
- ・施設内研修の際にふりかえりノートを配布し記入を勧めたが、定着していない

(3) 権利擁護

課題：

- ・権利擁護の観点からの支援方法が明確でない。
- ・適切な養育支援、入所者に対する不適切な関わりについて明確に示されていない

目標：

- ・適切な養育支援内容について明確にし、職員に対する教育に努める
- ・全養協児童養護施設における人権擁護のためのチェックリストの実践と項目内容の勉強会を実施する

評価：

- ・プライバシー保護マニュアルを策定し適切な支援方法を明確にしていく予定であったが完成できなかった。
- ・人権擁護のためのチェックリストを年1回実施した
- ・人権擁護のためのチェックリストの項目内容の勉強会を実施できなかった

6 職員処遇

課題：

- ・職員の処遇向上に努める必要がある

目標：

- ・福利厚生について職員へ情報提供しながら、職員の意見を反映しながら充実を図る
- ・相談しやすい体制作り努め、あわせて社労士への相談窓口を活用する

評価：

- ・福利厚生の情報提供を行った

- ・職員のモチベーション向上のため「ニヤリホット」を実施した
- ・社労士相談窓口の活用について職員会議で周知し、積極的な活用を促した

II 定数

令和4年度の児童の在籍数は、別紙1の「令和4年度入所児童初日在籍状況」の通り。本体施設は36名で始まり、37名で終了した。こどもの家童夢は6名で始まり、6名で年度を終了した。北の杜学園を卒業した児童は、男子3名、女子3名で6名とも高校進学した。

III 職員配置 合計40名（常勤37名、非常勤3名）

施設長1名、事務員1名、児童指導員・保育士（常勤）27名、家庭支援専門相談員2名、個別対応職員1名、心理療法担当職員（常勤）1名、（非常勤）1名、栄養士1名、調理員等（常勤）3名、調理員（非常勤）1名、嘱託医（非常勤）1名

IV 会議、委員会

次に掲げる会議・委員会を実施し、職員が連携しながら円滑な運営を行うよう心がけた。

会議

- 職員会議 月1回
- リーダー会議 月1回
- ユニット会議（ケースカンファレンス）ユニットごとに週1回
- ソーシャルワーク会議 月1回
- 調理会議 月1回
- 心理担当者会議 月1回
- 公文会議 月1回
- 緊急会議 問題行動、入退所の検討等必要に応じて開催

委員会

- 性教育委員会 月1回
- 権利ノート検討委員会 月1回
- ライフストーリーワーク検討委員会 月1回

V 年間の行事

施設行事、研修、実習受け入れに関する行事等の実施状況は別紙2の「令和4年度東光虹の家・こどもの家童夢年間行事実績」のとおり。コロナの感染拡大防止に努めながらユニットごとに季節の年中行事、誕生会等を実施した。

VI 児童手当、補助金について

令和4年度は、太田市から「児童手当」4,340,000円、「電気・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金」1,750,000円が支給された。支給されたものについては児童の将来のために

すべての額を児童名義の貯蓄に充てた。

令和4年度群馬県より以下の4種類の補助金の交付を受け事業を実施した。

- ① 「群馬県児童養護施設等における職員の資質向上のための研修事業費補助金」50,000円の交付を受け職員の研修派遣を実施。
- ② 「群馬県社会福祉施設等物価高騰対策事業費補助金」1,702,000円の交付を受け児童の食料品等の購入を実施。
- ③ 「ICT化推進事業費補助金」750,000円の交付を受けパソコン4台の購入を実施。
- ④ 「社会的養護従事者処遇改善事業費補助金2,571,000円」を受け職員の基本給ベースアップを実施。

令和4年度各月初日在籍状況

【東光虹の家】

年月	定員	在籍数	充足率%	入所者	退所者	一時保護	ショートステイ	備考
			40人に対し (東光虹の家) 6人に対し (こどもの家童夢)					
3年度末	40 6 こどもの家童夢	36 6	90% 100%					
4月	40 6 こどもの家童夢	36 6	90% 100%				4/9～10 女(3歳) 4/22～23 男(6歳)	
5月	40 6 こどもの家童夢	36 6	90% 100%				5/1 女(7歳) 男(5歳) 5/2～5/5 男(2歳) 男(4歳) 5/15～18 男(2歳) 5/22 女(7歳) 男(5歳) 5/23～27 女(7歳)	
6月	40 6 こどもの家童夢	36 6	90% 100%				6/6～7 男(5歳) 6/19～20・ 6/6/26～27 女(2歳)	措置停止 男(14歳) 6/30～
7月	40 6 こどもの家童夢	35 6	90% 100%	7/25 女(5歳)	7/27 女(8歳) 女(6歳)			措置停止中 男(14歳)
8月	40 6 こどもの家童夢	35 6	90% 100%	8/26 女(15歳)				措置停止 ～8/25・8/31～ 男(14歳)
9月	40 6 こどもの家童夢	35 6	90% 100%				9/6～12 男(5歳)	
10月	40 6 こどもの家童夢	35 6	90% 100%		10/18 男(14歳)		10/7～11 女(5歳) 男(4歳) 10/22～23 男(5歳) 男(4歳)	ぐんま学園へ措置変更 10/18 男(14歳)
11月	40 6 こどもの家童夢	35 6	90% 100%				11/5～6 男(6歳) 11/19～20 男(5歳) 男(4歳)	
12月	40 6 こどもの家童夢	35 6	90% 100%	12/6 男(8歳) 女(8歳)		12/3～5 男(11歳) 女(10歳) 男(7歳)	12/17～18 女(8歳) 男(6歳)	
1月	40 6 こどもの家童夢	37 6	93% 100%	1/16 男(3歳)			1/9～10 男(7歳)	
2月	40 6 こどもの家童夢	38 6	95% 100%		2/24 女(17歳)		2/11～12 女(6歳) 女(5歳) 2/18～25 女(8歳) 男(6歳)	
3月	40 6 こどもの家童夢	37 6	93% 100%	3/1 女(17歳)	3/22 男(6歳) 3/25 男(10歳) 男(8歳)		3/4～5 男(5歳) 男(4歳) 3/18～19 女(6歳) 女(5歳)	
令和4 年度末		430 72	90% 100%	6人	7人			

月	日	法人行事等	日	東光虹の家・こどもの家童夢行事等	担当者	研修			日	実習		
						研修名	主催	出席者		学校名	人数	
4	1	辞令交付	16	避難訓練 ゴールデンウィーク外出 群養協理事会	増田・渡邊							
5	17	法人監事監査		ゴールデンウィーク外出	川島				16~28	高崎健康福祉大学	2名	
	26	第1回理事会	6	消防用設備総合点検								
	27	第三者委員への苦情解決報告会	14	母の日行事 避難訓練	永島・渋澤				5/30~ 6/11	東京福祉大学	1名	
6	11	合同避難訓練	11	児童健康診断 避難訓練	松本・山本							
	18	第1回評議員会	18	自然体験 父の日行事		9	児童福祉施設指導者合同研修 スーパービジョン研修	子どもの虹情報研修センター 全社協中央福祉学院	杉本 荻野 永島			
	24	全体会議	19	児童外食								
7	1	広報誌発行		夏期休暇特別日課	川島・前川	6・7	関東ブロック児童養護施設研究協議会	関東ブロック児童養護施設協議会	本間弘			
	1	ホームページ更新				13・15	福祉職員キャリアパス初任者コース	県社会福祉協議会	松澤 花形 前川			
			16	避難訓練		15	ほめトレ	県児童福祉・青少年課				
8			1	児童個人面接開始	荻野・五十部	1	会計実務〈基礎〉研修会	東京都社会福祉協議会	川田 出居 澁澤 村木 大橋 中島	8/8~	群馬医療福祉大	2名
			5	夏季一時帰省		2・4	福祉職員キャリアパス初任者コース	県社会福祉協議会		10/8		
			20	避難訓練 未帰省児童外出		10・18	福祉職員キャリアパス初任者コース	県社会福祉協議会		8/8~	高崎健康福祉大学	1名
						25・9/15	福祉職員キャリアパス中堅コース	県社会福祉協議会		9/30		
9			1	自立支援計画作成	川田・渋澤 栗山	7・15	福祉職員キャリアパス中堅コース	県社会福祉協議会	阿由葉 上野 荻野	16~28	育英短期大学	1名
			18	避難訓練		9	群養協第1回職員研修	群馬県児童養護施設連絡協議会				
			19	老人ホーム慰問		29	児童養護施設指導者研修	子どもの虹情報研修センター				
10			15	職員・児童健康診断 避難訓練	濱村・阿由葉	5	関東ブロック 児童養護施設職員研修会	関東ブロック児童養護施設協議会	後藤 野澤 中島 木暮 柏木	10/4~ 1/31	東京福祉大学	1名
			19	第三者評価施設長 ヒアリング		18・26	児童福祉司任用資格研修	県社会福祉協議会	10/31~ 11/12	立正大学	2名	
11	15	第2回理事会	6	パターゴルフ招待	川島	4・25	児童福祉司任用資格研修	県社会福祉協議会	木暮 柏木 永島 宇津木 永島			
			9	消防用設備総合点検		5	栄養士スキルアップ研修会	日本栄養士会				
			19	避難訓練	宇津木・原口	17・18	福祉職員キャリアパスチームリーダーコース	県社会福祉協議会				
			28	第三者評価受審		21・22	群養協第2回職員研修(新任)	群馬県児童養護施設連絡協議会				
12	2	全体会議	1	開園記念行事	荻野・宇津木 阿由葉	6	アンカーマネジメントキッズインストラクター	日本アンカーマネジメント協会	村木 出居 大橋 木暮 柏木 本間弘 松澤 二渡			
			11	児童外食		9	アンカーマネジメントキッズインストラクター	日本アンカーマネジメント協会				
			17	群養協縄跳び大会	野澤・遠藤	13	児童福祉司任用資格研修	県社会福祉協議会				
			24	避難訓練		13	全国児童養護施設長研究協議会	全国児童養護施設協議会協議会				
			24	クリスマス会		16	アンカーマネジメントキッズインストラクター	日本アンカーマネジメント協会				
			27	冬季一時帰省		17・18	社会福祉士実習指導者講習	社会福祉士会				
			26	冬季休暇特別日課								
1	1	広報誌発行	1	初日の出参拝・初詣	渡辺・中島 栗山・木暮	17	ライフストーリーワークベース講座	夢憂樹	荻野 後藤 杉本 川田 前川			
	11	新年挨拶会	1	個人面接開始		24・25	基幹的職員研修	県児童福祉・青少年課				
			14	避難訓練		30・31	ファミリーソーシャルワーク研修	全国社会福祉協議会				
			14	希望の集い								
				未帰省児童外出								
2			1	自立支援計画作成	柏木・坂本	6	群養協第3回職員研修	群馬県児童養護施設連絡協議会	後藤 杉本 川田	6~28	埼玉県立大学	2名
			18	避難訓練		9・10	基幹的職員研修	県児童福祉・青少年課				
				人権擁護チェックリスト実施								
3	13	第3回理事会	18	避難訓練	杉本・前川 杉本・木暮	6	全国児童養護施設中堅職員研修	全国児童養護施設協議会	飯田 増田 阿由葉 本間弘	6~18	足利短期大学	2名
	16	全体会議	19	進路進学を励ます会		20	権利擁護セミナー	全国児童養護施設協議会				
	31	辞令交付	27	春季特別日課								

※定例行事等

避難訓練、誕生日会、公文

<定例会議>

毎月実施：運営会議(法人)、職員会議、リーダー会議、調理会議、心理担当者会議、ソーシャルワーク会議、公文会議

リスクマネジメント委員会、研修体制検討委員会、性教育委員会、アクションプラン2025検討委員会

個人情報管理委員会、権利擁護検討委員会、人材確保検討委員会、情報公開検討委員会

事務委員会、キャリアパス検討委員会、BCP策定検討会

権利ノート検討委員会、ライフストーリー検討委員会

毎週実施：ユニット会議

その他：納涼祭実行委員会